

グリーンサークル 52号

クローズアップ
活動団体紹介
講座イベント紹介
多摩しみどりのかわら版

萩生田 尚樹
なな山緑地の会
多摩市消費生活フォーラム&エコフェスタ2023
斉藤 毅

コブシ



～クローズアップ～

これからのグリーンボランティアとの協働について 一般社団法人多摩市緑進会 事務局長 萩生田 尚樹



平素は当会の活動にご理解・ご協力くださりありがとうございます。またグリーンボランティアの方々の熱意ある活動には、同じみどりに携わる者として敬意を表します。

我々、多摩市緑進会は造園業の市内団体ですが、平成27年に一般社団法人化をいたしました。一般社団法人化への背景と致しましては、当時多摩市において策定されました「みどりのルネッサンス」や、市民協働によるみどりのまちづくりの推進など求められているニーズに対応するため、造園業者としての技術向上のみならず、ボランティア団体との協働や指定管理者制度やPPP制度などへの知識向上、またみどりに関するイベントへの協力や社会的信用性を高めるために法人化をいたしました。法人化をして8年を経過しましたが、現在では多摩中央公園改修整備・運営事業者のTAMAセントラルパークJVと協力協定を締結したり、市民活動・交流センターにおける民間提案制度を利用した植栽管理提案などや商工会議所と宇宙桜の苗育成などを手掛け、いままでの単なる造園業者団体とは違いのある活動が少しずつ出来るようになってきたと感じております。

さて、多摩市においては第3次みどりと環境基本計画の素案が作成され、これから実施されるところであります。みどりだけではなく、SDGs・気候変動への対応、生物多様性・資源循環など様々な計画を市民とつくり上げるなど市民協働への期待が大変高まっております。そういった計画の中でグリーンボランティアの方々への期待は大変大きいものになっていると感じます。我々、緑進会とグリーンボランティアの方々とはあまり大きな接点はいままでありませんでしたが、これから市民協働を進

めていく上で、当会として交流を図っていきたくと考えております。普段より各ボランティア団体の活動を拝見させていただきますと、我々、業者はどうしても決まった仕様の中での仕事となってしまうなにかに特化した管理を行うことが難しいですが、皆様の活動は自然を楽しみ、目的と熱意を持って活動されていることは頭が下がる思いです。

「雑木林保全」がメインとお聞きしておりますが、今後は公園緑地の様々な使われ方が提案され、市民の方の活動の場として公園・緑地が活用されていく中で、保護管理活動のみならず、当会と一緒にイベントの運営や講座などを手掛けていただければと期待しております。また当会といたしましても、検討中の段階ではありますが、グリーンボランティアの活動に伺い、普段出来ないような専門的な作業などがあればお手伝いさせていただくことや活動で使用する道具類の支援なども計画しております。

当会とグリーンボランティアの皆さまと協働できる環境を推進し、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



ロープクライミング体験(多摩中央公園)

～活動団体紹介～

TAMA サステナブルアワード 2023 での表彰及び表彰式についての報告

なな山緑地の会 会長 中山 茂樹

12 月 2 日午後、ベルプ永山において、TAMA サステナブルアワード 2023 (今回は二年目) の表彰式が行われました。

「なな山緑地の会」は、地球温暖化対策部門という立派な賞を頂きましたので報告します。



表彰状

・自然学習でこの緑地を訪れる子ども達は、緑地の環境、資源、昆虫などの多様な生き物など、里山の持つ魅力に触れ、生き生きと緑地で活動している。

・メンバーはもちろん、里山に触れる人々に、里山を保全し、後世に伝えたいとの問題意識が芽生えている。

・緑地の適正な管理により、樹木の成長を促進し、その更新を図り、健康な里山の維持を推進することで CO₂ の吸収を行い、地球温暖化防止にも大きく貢献している。

【審査員のコメント】

・長期的に緑に手を入れていることは重要な実績であり、素晴らしい。

・緑地の管理や利用を通じて、地域の自然の保全やコミュニティの活性化を図るための活動を長年に渡って行っており、評価できる。

・里山の保全から始まった活動が、コミュニティ形成や生物多様性への寄与など、SDGs の様々なゴールにコミットした多様な活動へと展開しており、また情報発信もしっかりされており、高く評価できる。

【写真上】受賞者全員での記念撮影



【写真右】阿部市長から表彰状を受け取る中山さん

表彰式において、多摩市環境部環境政策課佐藤課長から「なな山緑地の会」の活動について、1) 取組内容、2) 表彰に値する評価できる点、3) 審査員のコメントが紹介されていたので、報告します。

【取組内容】

- ・平成 16 年から 20 年間、和田緑地保全の森、通称「なな山」に残る里山保全活動を実施している。
- ・枯損木、倒木の伐採。間伐と枝払い。草刈、落ち葉掃き。刈り草、落ち葉の腐葉土づくりと観察農園での野菜作り。間伐材利用のホダギを使って、シイタケ栽培。発生材を使っての木工ワークショップ・テーブル、ベンチの製作・設置など様々な保全活動を実施している。

【ポイント・効果】

- ・当初は、人が入ることさえ難しい倒木や藪の所も多く、ごみの不法投棄も相次いでいたが、会の活動により、緑地内の散策な道ができ、藪や倒木が放置されることは少なくなった。

これまで 20 年に渡って続けて来た会のみなさんの活動や取り組みについて、高い評価がされていると思います。ナラ枯れなど厳しい状況もありますが、引き続きこれまでの活動や取り組みを絶やすことなく続けていきたいと思っています。



「なな山」に残る里山の保全活動

～講座イベント紹介～

多摩市消費生活フォーラム & エコフェスタ 2023

多摩グリーンボランティア森木会 会長 田村 薫

2023年12月2～3日の二日間、ベルブ永山で「多摩市消費生活フォーラム&エコフェスタ2023」が開催されました。

このイベントは多摩グリーンボランティア森木会の活動を広く多くの方々に知っていただくための数少ない絶好の場です。会場に足を運んでいただいた方々に興味を持ってもらえるよう、いろいろな人の意見を参考にしながらあれこれ知恵を出し合ってみんなで検討した結果、ここ数年話題となっている「ナラ枯れ」をテーマとしたパネル展示をしてみても、ということになりました。

ちょうど新型コロナウイルスが蔓延し始めて、世の中が大パニックとなった頃と前後して、東京近郊の自然の中でも異変が始まりまっておりました。私たちが活動の場としている雑木林、公園緑地はもちろんのこと、遊歩道沿いでも枯れた木が明らかに目立つようになってきました。新緑の季節や夏真っ盛りのみどりの濃い時期でも、ところどころ、まるで秋の紅葉のように赤茶色になった樹々をたくさん目にするようになりました。このような現象を一般の方々は気が付いているのだろうか、日頃関心も持っておられる方はどれぐらいいるのだろうか。早速、有志の会員が集まって展示に向けての準備がスタートしました。

まずは数年にわたり各活動団体から報告が上がってきたナラ枯れ状況の振り返り。そして以前有志で行った「ナラ枯れ勉強会」の記録もあって、森木会事務局にはおよそ三年間のデータがいろいろな形で蓄積されておりました。

そしてなんと言っても心強かったのは、ナラ枯れ



たくさんの方が興味を持って訪れ、話を聞いてくれました。

発生当初から危機感を持って、雑木林の状況をつぶさに観察してきた会員の方の調査報告です。この方のご尽力、そして今回も中心となってとても分かり易い内容にまとめ上げていただき、完成度の高い素晴らしい展示パネルが出来上がりました。

イベント当日2日間は、たくさんの方にご来場いただき、展示パネル、ナラ枯れ樹木の実物、原因となった「カキノナガキクイムシ」の実物を使って多摩市内の状況、ナラ枯れ発生の原因、今後どのような対応を取っていったら良いのかを懇切丁寧に詳しく解説しました。

何となく気になっていた方や今までまったく気が付いておらず、「ナラ枯れ」という言葉を初めて耳にした方などいろいろいらっしゃいました。多くの方々の理解の手助けになり、興味、関心を持っていただけたことが実感できました。

また、イベント全体のアトラクションとして企画したクイズラリーの参加賞の提供を各団体にお願いしたところ、たくさんの方の素敵な景品をご提供いただきました。これらはすべて活動の中で発生した、間伐材を利用した作品です。竹製バターナイフとジャムナイフのセット、バードコール、フクロウのストラップ、青竹踏みなどどれも大好評でした。

ナラ枯れのパネル展示、来場者へのプレゼント。どちらも多摩グリーンボランティア森木会の絶好のアピールになり、たいへん充実した二日間となりました。今後もこのような機会がありましたら積極的に参加していきたいと思っております。



「ナラ枯れ」をテーマにしたパネル展示

～多摩市みどりのかわら版～

エコ・フェスタに携わって

多摩市 環境部 環境政策課 斉藤 毅

環境政策課の斉藤と申します。環境政策課では、「生物多様性」や「まち美化」「市民団体との協働」など環境啓発全般を担当しています。担当の一つの「エコ・フェスタ」は、環境団体や企業、学校、行政が集まり、暮らしや環境に関する様々な問題について幅広い視点から情報を発信し、市民の皆さんと一緒に考えるイベントで、各団体のパネル展示や講演会、表彰式などを行っています。

私が環境政策課に異動してきたのは令和 2 年 10 月。それまで「エコ・フェスタ」はパルテノン多摩で開催していましたが、この年はパルテノン多摩が改修工事のため会場をベルブ永山に移して「消費生活フォーラム」と合同開催することになっていました。時期は、まさに新型コロナウイルス感染拡大の真ただ中でした。いつ緊急事態宣言が発令されてもおかしくない中、迎えた当日、手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保など感染対策を万全に行い、無事に開催することができました。一番辛かったのは、折角のイベントなのに人が集まり過



ぎてはいけないという理由で、PRを十分できなかったことです。こうして自分にとって初めての「エコ・フェスタ」は、コロナ禍真ただ中に、初めての合同開催という形で終わりました。

令和 4 年からは、「エコ・フェスタ」の中で、TAMA サステイナブル・アワードを新たに開催しています。これは、地域や学校、企業で実践されている「持続可能なライフスタイル」「環境にやさしい取組」を広く周知することで、多くの人が共感し、環境に対する一人ひとりの意識啓発・行動につなげていくことを目的としたもので、私は企画から担当し、思い入れがある事業となっています。おかげさまでうまく実施することができていて、第 1 回は 14 団体から応募があり 4 団体を表彰し、第 2 回は 11 団体から応募があり 6 団体を表彰しました。

このように、「エコ・フェスタ」の参加団体やサステイナブル・アワード受賞団体だけを見ても、多摩市では本当に多くの団体が環境に関する優れた取組を行っていて、ただただ頭が下がる思いです。来年度は、会場をパルテノン多摩に戻す話もありますが、ある意味、バージョンアップされる絶好の機会かもしれません。私も各団体と連携し、微力ながら「エコ・フェスタ」を盛り上げ、一人でも多くの人が環境問題を考える機会としていきたいと思えます。



環境への関心の高さが分かります

表紙の絵

「コブシ」絵・内城葉子

果実が握りこぶしに似ているからの名前ですが花の姿からは想像がつかせんね。

<プロフィール> 1949 年東京生まれ。1986 年国立科学博物館第 2 回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989 年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005 年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 52 号

発行日：2024 年 2 月 29 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tg1c/>